

身近な天体、太陽を知る



そらんぽ四日市
ホームページ

太陽は最も身近な天体の一つです。晴れの日は洗濯物がよく乾く、といった日々の生活で実感しやすい事象や、地球の大気が生命にとってちょうど良い温度に保たれているという科学的事実など、私たちは太陽エネルギーの恩恵を日々受けています。

そんな太陽の活動が、近年活発になっているのをご存知でしょうか。分かりやすいのは太陽黒点数の増加です。黒点の数の増減周期はおよそ11年で、ここ数年は大きく増加する時期を迎えています。

黒点は「太陽表面の温度が低い場所」と言われていますが、より科学的に説

明すると、「太陽表面の激しい磁気活動が起きている場所」と言えます。このような太陽活動が活発になると、太陽が発する電磁波などで、磁気嵐が発生したり人工衛星に障害が起きたりと、さまざまな現象が発生するのです。

そんな今注目の太陽について、博物館では3月12日からのプラネタリウムの投映に合わせてオリジナル番組を制作中です。また3月23日には、宇宙塾「太陽でスーパーフレアは起こるか？」も実施します。詳細は「広報よっかいち」2月下旬号でご紹介します。



☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

河原田地区随一の景勝地

忘歸處

河原田地区西部の丘陵地帯、河原田神社がある三神山頂上に、「忘歸處」の石碑があります。

忘歸處の名前の由来は、河原田の旧家・熊沢家の熊沢市兵衛を、宮内大臣や貴族院議員など明治政府の要職を務めた田中光顕伯爵が訪れた際に、三神山から眺めた風景の美しさに感動し、帰ることを忘れたことによります。

石碑の文字は、田中伯爵が手掛け、市兵衛が碑を昭和8（1933）年に建立しました。市兵衛は、小学校建設費を寄付し、「熊沢奨学資金」を設けるなど地域振興に尽くした郷土の偉人で、顕彰碑が河原田神社にあります。

三神山頂上から東を望むと、晴れた日には、御嶽山や伊勢湾を挟んで知多半島まで見渡すことができます。頂上には、ベンチも整備されています。これから暖くなる時期に、景色を楽しみに登ってみませんか。



忘歸處より東を望む風景

☎ 文化課 (TEL) 354-8240 (FAX) 354-4873